時々写真を送ること、元の下宿の
方へ行くのと門番の娘はめさんが
何でも写真に出たいからって
怒しおって来てうるさいのと、
どこでも人情を一つ、分も姉し
かって、
使ばかりをつとしくとゆふ手紙ど
写真でみると写真の方り空ろ
かってみるでないり大唐衣も
らしくなってきゆえ、
私の病気のすいたからも大方
直ったらうから、私もの
笑と男や、巻病い二月中旬で
ろを詰をみかしつるも四月廿
心配ど、実際ハズットは有り難い

キザしが出つるまでひまい、それ
から中途で諦めかけて一ヶ月
私自宅療養とやってみると私と
私へ行きに元の熱がかしもなくれぬ
のでこまりかねて通る三日十八日
入院した、
病院でも諦めの診断も
出る一部で即ち肺炎ど、慢性
ぶちの肺炎ばかりのごりく
と取詰めて来る、咳痰ども結核
菌もある、諦めの説ども左肺
も強ト侵されないが右肺ばかり
ふつてみるさうど、左が私へ向ふ

みやさう風せんさい、咳としても
去時の御著いて痛めるやうなる
仕代るは自信の土の中なるの
やう、それとも再びは本の土が踏
めるやう、まだ結局どと思ふ
れど、実の角毎三十八九度の
熱の責められるので、身体い
州土やの疲れしと、鏡をのぞい
てみると心細くなるほど痩せる、
話る者のいふは熱さえ抜れさ
ら直ぐ復復を立退いて伊
豆の温かい空気のめいるので療

養あさいといふ
何でも彼は復と立退きさへす
れば私の命を助けるやうにいふ
れど、熱のあるうちはいやな彼
は復よりやでもあるでもかくむで
みねばならぬ、かくもてみる果
まいむしるるやうなやうでは身
見出すはずぬれど、爲の仕合せな
るつもり、それはこれなと病気し
ても宜は一向弱らぬ、病復の
度次二度の仕方行通しい
位ど、男がかうまで夫の中は減る
死ぬものでない、或はこの大丈夫

特別
イ4
2090
52(17)
1·2·3·4

5

胃のお薬で死ぬ事を防うて
居ります事は有難いが
えらいらも知らぬ、めづく
さうりみ御合みしたいと思つて
一生懸命に胃の保護をして
ゐけど限りなくくるしくなる
もちろんどこに根氣も無
くなつて二の位の事は一ヶ月
てももう仕ようがない、
まるでやうに成ら、
三月廿一日

柳子殿

[illegible]

Mr Sinorin

東京市 本郷区
彌生町三番地
長谷川柳子殿

TSUBAMI
JAPAN
特別
14
2090
52 (17)
封